

認識のずれ対話で埋める



サノヤステクノサポート

福田 彩乃さん



ものづくり推進部
開発・技術推進室

(1面から続く) 芝浦工業大学の1-3年次に「人間コンテスト」で活動したことが、モノづくりに興味を持ったきっかけでした。100人近い部員が1年かけて1つの大きな機体を作り上げる過程に魅力を感じたからです。専攻は数理学で保険数理を学んでいましたが、モノづくりに関わる仕事がしたいと思うようになりました。就職活動では特に専門を決めておらず、多様な設備・機械を扱い、幅広い領域に挑戦できるサノヤホールディングスに入社を決めました。

入社後に技術研修でモノづくりの基礎を身に付けた後、22年にサノヤステクノサポートに転籍しました。最初の数年間はショットプラストマシン設計のサポート業務でした。3DCADを紙の図面が中心だった現場で使うため、既存装置を自ら3Dデータでモデル化し、設計で使うための運用ルールを整理しました。

現在はショットプラストの心臓部であるローターの構造や部品の見直しによる原価改善を担当しています。初めて自分が設計した部品が実機に組み込まれた時、図面だけでは分からない多くの課題に直面しました。そうした工程管理やトラブルを見越した準備に、人間コンテストでの学びが生きています。

最も大切にしていることはコミュニケーションです。認識のずれがあると良い結果につながらないためです。後輩のオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)でも話しやすい雰囲気作りを意識しています。今後は設計の専門性を高めつつ、幅広い領域に挑戦したいです。

旅行が好きで、休日は離れた友人と現地集合で会るのが楽しみの一つです。

(文=大阪・池知恵、写真=田山浩一)